

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	先進的ケア・ネットワーク開発研究
学籍番号	17S3021	院生氏名	金廷恩
通学キャンパス	赤坂キャンパス		
論文題目	高齢者自立支援介護の実践と今後の課題 日韓比較にみる介護サービス		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>目的は、日本と韓国における介護サービスの現状を通して、両者の自立支援介護の実践に向けた課題を明らかにすることである。本研究は2つの研究から成り、研究Ⅰでは日本と韓国の高齢者介護の変遷と社会的背景を概観し、研究Ⅱでは両国の介護施設に勤務する介護職を対象にした質問紙調査の比較分析とした。研究Ⅱの有効回答率は、日本が309(82.4%)、韓国が316(81.0%)、日韓併せて625(81.6%)であった。自立支援介護における日韓の比較分析は調査項目別にクロス集計<math>\chi^2</math>乗検定、日韓2群間平均値比較には順序尺度を用いたt検定、支援介護に影響を及ぼす要因分析には重回帰分析を用いた。</p> <p>結果、日本の介護職は自立支援を目指して個別ケアに取り組んでいるが、マンパワー及び時間の制約が阻害要因であることや自身の専門性を低く認識していた。一方韓国の介護職は自身の専門性の評価は高いが、事故防止や安全を優先する傾向があることから、目標が自立支援よりも管理的側面に重きを置いた介護を行っていた。日本では、自立支援介護の成果と連動した介護サービスの質評価の導入が、韓国ではお世話中心から自立支援への介護目標の転換と確立の必要性が示唆された。</p> <p>&lt;研究方法・手順&gt;</p> <p>本研究は、国際医療福祉大学研究倫理審査委員会(承認番号IUHW-2017-2099)の承認を得て実施され、調査協力の許諾が得られた調査対象施設の施設長に研究の目的・方法・倫理的配慮について説明文を用いて説明を行い、調査対象者には、調査票に添付した研究協力依頼説明書にて説明を実施、調査票の返信をもって同意を得たものとした。</p> <p>&lt;新規性・意義&gt;</p> <p>介護サービスの質の根幹となる介護職を対象とした研究は、日韓の介護職のケアに対する意識に着目した研究及び介護職養成課程の比較研究は行われているが、介護の専門性を自立支援介護の実践と捉え、このことが介護人材育成に適用された研究は見当たらない。急速に高齢化が進展する東アジア諸国の中で日韓両国の比較研究を通して自立支援を目標に向けた介護の理念と介護人材の在り方を明らかにすることは意味がある。</p> <p>&lt;審査経過&gt;</p> <p>発表及び口頭試問を2回実施した。初回の発表・口頭試問では、研究疑問を明確にするために、日本韓国の介護制度に関わる変遷の考察を研究Ⅰとして位置付けること、資料分析手順等の確認等、論文の修正を求め、修正は適切になされた。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	杉原 素子	
	副査	水巻 中正	
	副査	松本 明美	